



特別号



R6. 9.27

9月17日(火)北伊予小・中学校保健安全委員会が開催されました。
 学校保健安全委員会とは、規約の第2条に「心身ともに健やかな児童生徒の育成をめざして、学校保健についての諸問題を検討し、その実践を推進していくための研究協議と連絡調整を行うことを目的とする。」とあります。
 北伊予小と交替の隔年で開催し、今年度は北伊予中学校で開催しました。
 今回は、その内容について要点をお知らせします。

今回のテーマ

学校における「がん教育」について

講師 愛媛県教育委員会保健体育課 大野 小百合 指導主事 様
 NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長 松本 陽子 様

大野 小百合 指導主事 様 より



松本 陽子 様 より

がんという病気は、国民の2人に1人がかかる病気で、死因の第1位でもあります。

がんをもっと知る事が、予防につながり、また、早期発見により適切な治療を受ければ、治る病気でもあります。

文科省からの「がん教育」の委託を受けた愛媛県が、県下の中学校1校と高等学校1校を指定し、がん教育を推進していきます。今年度、指定を受けた北伊予中学校では、今回のがん患者様の講演会と、11月の保健体育科における授業を通して推進していただきます。

今回、参観後の講演会ということで、保護者の皆様にも聞いていただき、より多くの人に、がん教育における知識と理解を深めることができるのではないかと思います。



私は、33歳で「子宮頸がん」を経験しました。

体調不良を感じたら、病院受診が遅れた結果、約4年にもわたる治療、闘病生活を送りました。同じ部屋の患者さんは約2週間という短い期間で、退院できました。早期発見だったからです。

子宮を摘出する手術を受け、子どもは、さほど望んでいなかったものの、「産まない」と「産めない」事の違いが大きいことを思い知らされました。

皆さんには、3つの「チカラとココロ」を持って欲しいと思います。

1つ目は、正しい情報を探すチカラ、2つ目は、自分で考えるチカラ、3つ目は、周りの人に寄り添えるココロです。ちなみに、がんについての正しい情報を得る方法は、ネット検索で「がん情報サービス」と検索することです。

また、がん患者は、周囲の人の何気ない言葉に傷ついています。がん患者の気持ちに寄り添った言葉掛けをしていただきたいと思います。例えば「かわいそうに」「お気の毒に」という声掛けが一番辛かった言葉です。反対に「話聞くよ。」「がんばりすぎだよ。」などの言葉は、がん患者の気持ちに寄り添った言葉です。

がん患者が少しでも安心して生活できる活動・サポートを「おれんじの会」は行っています。